

佳作

言葉と人生

福岡県 福岡県立小倉南高等学校一年 稲田 菊心

あなたは、人生の中で大事にしている言葉をもっているだろうか。私には今までの人生において、勇気づけられ支えられた言葉が二つある。その二つの言葉のおかげで、私は私自身を励まし心を強くすることができ、たとえ苦悩につまずいたとしても何度も立ち上がり進んできた。言葉というのは、人を勇気づけたり支えたり、時に傷つけてしまうものでもある。出会った言葉によって、その人の人生観や生き方さえ変わることもある。私も実際、これから紹介する二つの言葉の影響で今までの考え方が大きく変わり、自分に自信がついた。このように、人の心に響き、人生さえも変えてしまうような「言葉の力」の大切さについて、私の体験を通して伝えていきたいと思う。

私は四人兄弟の末っ子で、上には兄二人と姉一人がいる。一年前の中学三年生の時、私は他の受験生とは少し違う大きなプレッシャーを抱え、不安だらけの日々を過ごしていた。なぜならば、私の上の兄弟全員が県立高校

は気にせんで、今ある力の全部を出してきなさい。」

私はその言葉を聞いた時、閉じていた「自分を信じる扉」が開いたような気がした。力をすべて出すことは簡単ではない。しかし、力を全て出そうとする努力をすることはできると思う。そして、「あなたには力がちゃんとついている」と、私の不安だった気持ちを支えてくれた言葉。その当日、私はその言葉をお守り代わりに受験を受けた。今思っても、あの言葉がなかったらどうなっていたのだろうと思う。そして私は今年の春、無事にその高校に入学することができた。辛い時にいつもそばにいてくれ、私を支えてくれた母の偉大さにこの経験を通し気づくことができたと思う。お母さん、本当にありがとう。

そして、私が人生の中で心に響いた二つ目の言葉は、「緊張を力に変えろ」という言葉だ。これは、私が中学三年生の頃、ある塾に通っていた時にその塾長が言っていた言葉だ。世の中には「落ち着いて」や「いつも通りで大丈夫」といった応援する際にかける言葉がある。私もこの言葉を塾に通う前に言ったり言われたりしていた。なぜなら、緊張していたら、本来の力が発揮できず失敗してしまうと思っていたからだ。しかし、その考え方は全く違っているということを私は塾長に教わった。塾長は私達に向けてこう言った。

「緊張というものを恐れるがあまり人は失敗しやすくな

に合格していたからだ。母にその事を打ちあけると、母は、

「そんなこと気にしなくていいよ。兄弟と比べたりしないでいい。」

と私の手をとり、優しく言ってくれた。しかし、そう言われても私の心の中は不安と葛藤がモヤモヤとさまよっていた。クラスの同級生や仲の良い友達、同じ塾の生徒など、自分の身の周りの人が先にどんな受験に合格していく姿を見て、正直それを心の底から祝えない自分がいた。それは、その時期の私が今まで味わったことのないくらい不安と焦りに襲われていたからだ。成績も志望校の合格ラインに届くかも曖昧で、友達の合格を心から喜べなかったこともあり、自分の全てが嫌になり、先の全く見えない鬱々とした日々が続いていた。

そして迎えた受験当日。私は今まで努力してきたことがしっかりと自分の力になっているかとまた不安に襲われ、少しだけ気持ちが落ちこんでいた。その日は、早朝から塾に行きそのまま本会場へと向かうため、母に車で送ってもらった。母は私を不安にさせないためか、いつもと変わらない表情でなんでもない会話をしてくれた。そして車が塾の前に止まり、私が車から降りようとした時、母が私の背中を三回たたき、こう言った。

「菊心は十分に力をもってる。でも、途中で分からなくな

る。しかし実際は違う。緊張することでの体のさまざまな器官のはたらきが活発になり、本来以上の力を出すことができる。だから、緊張することが必要だ。」

この言葉を聞き、私の考えは百八十度変わった。緊張という怪物こそが私達を失敗へと引きずり込むものばかり思っていたからだ。私はこの言葉に出会って以来、緊張した時はその緊張を楽しんでやろうという気持ちに切り替えられるようになった。

このように、私は二つの言葉によって人生の考え方が変わり、今までよりも明るい考え方で生きられるようになった。言葉には色々な力がある。人を元気にさせる力、喜ばせる力、悲しませる力。そんな多くの力がある中で、私達は言葉を通して繋がり、言葉を通して強くなっているのだと思う。